

# 日立電気温水器

## 追焚スタンダード

### 工事説明書

#### 1. 適用機種および仕様

据付場所	型式名	貯湯量	満水時質量	容量	ドレンパン
屋外・屋内兼用	BE-D37BWU(BL)	370 L	約 443kg	4.4kW	不付
	BE-D46BWU(BL)	460 L	約 543kg	5.4kW	
	BE-D56BWU(BL)	560 L	約 659kg	6.4kW	

標準仕様は、「ドレンパン」不付です。ドレンパン付仕様（受注生産）の場合は「内蔵」となります。事業者の方が本製品を設置される場合、本製品は労働安全衛生法施行令に定める**小型ボイラー**に該当します。このため事業者の方が設置される場合は、所轄の労働基準監督署へ設置届の提出が義務付けられております。

#### BL 保険制度について

型式末尾に BL のつく機種は、BL 認定品です。BL 認定品は下記の BL 保険制度が適用されます。  
 ・当社の定める施工要領を逸脱しない据付工事に不具合(瑕疵)が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行った場合、BL マーク証紙の貼付(又は刻印等)がされている部品については、財団法人ベターリビングの BL 保険制度に基づき保険金が支給されます。  
 ・BL 保険制度や当住宅部品の施工要領の詳細については、財団法人ベターリビングのホームページ(<http://www.blhp.org/>)をご覧ください。なお、BL 保険制度に関する質問は、財団法人ベターリビング(TEL03-5211-0559)でもお受けいたします。

#### 2. 据付けおよび付帯工事をされる方へ

据付け工事および付帯工事は必ず専門の工事業者により行ってください。  
 電気温水器の性能・機能を十分に発揮させ、安全を確保するため必ず本書の記載事項を守って工事を行ってください。  
**本記載事項に適合しない工事をされた場合の事故については責任を負いかねます。**  
 工事完了後は、本書を保証書、取扱説明書とともにお客様にお渡しし保管していただくよう依頼してください。  
 工事完了後は、最寄りの電力会社の営業所に【電気温水器据付け完了】の連絡をしてください。  
 ガス機器から電気温水器へ変更する際は、事前にガス業者への連絡が必要になります。  
 ガス業者への連絡をせずに無断撤去することは、法令により規制されておりますのでご注意ください。

#### 3. 関連部品

部 品 名	必 要 数	型 式
リモコンコード 2 芯 5 m	台所リモコン、追焚きスイッチそれぞれにいずれかを各 1	BERC-5M2
リモコンコード 2 芯 1 0 m		BERC-10M2
リモコンコード 2 芯 1 5 m		BERC-15M2
絶縁パイプ (給水、給湯用)20A 0.5m	2	ZP-3S
ふる循環アダプター(L曲がり)	いずれか 1	BDAD-L
ふる循環アダプター(ストレート)		BDAD-S
オートベント	いずれか 1	AV-20A
オートベント (保温材付き)		AV-20AZ
アース棒	1	BEA-1
脚部後方差込金具	必要に応じ 1	BEM-3S

「絶縁パイプ」「オートベント」「アース棒」は、取付けをおすすめる部品です。

#### 4. 同梱付属品

本体には、下記の部品・付属品が同梱されておりますのでご確認ください。

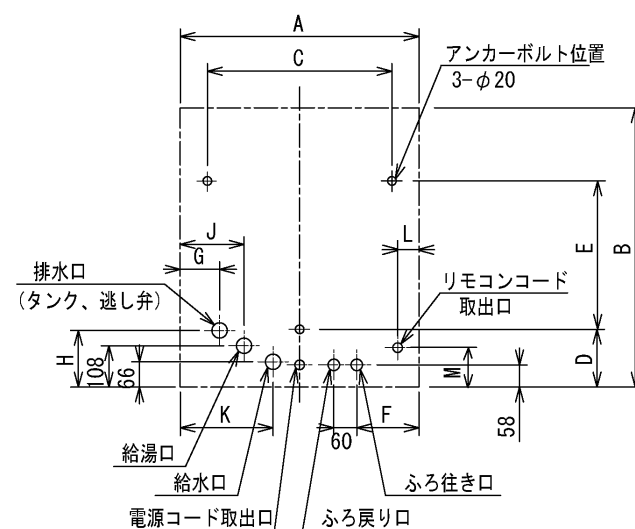
- 保証書
- 取扱説明書
- 工事説明書(本書)
- アンカーボルト施工用型紙
- 台所リモコン × 1
- 追焚きスイッチ × 1
- 据付工事後のチェックリスト
- 小型ボイラー設置報告書
- 小型ボイラー明細書

#### 安全上のご注意

⚠ 警告	
⚡	アース工事は必ず行う。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。
🚫	温水器の近くにガス類や引火物を置かない。発火することがあります。
⚠	漏電遮断器の動作確認をする。漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のときに感電するおそれがあります。シャワー給湯には、必ずサーモスタット式の逆止弁付き湯水混合栓を使用する。万一の機器の故障時に、やけどのおそれがあります。

注意	
	防水処理、排水処理をしていない床面に設置しない。万一の漏水のときに大きな被害をおよぼすおそれがあります。
	凍結防止対策を行う 配管が破裂してやけどをするおそれがあります。
	温水器本体の脚 3 か所を必ずアンカーボルトで固定する。固定しないと地震などのとき、本体が倒れてけがをすることがあります。
	温水器本体を 2 階以上に据付ける場合は、本体上部を付属の転倒防止金具で固定する。固定しないと地震などのとき、本体が倒れてけがをすることがあります。
	水道法に規定された水質基準に適合する水を使用する 石灰分などの多量付着により熱交換器部の破損や、硫化物などによる金属腐食が考えられるため、井戸水は使用しないでください。水漏れ、故障の原因になります。
	以下の場所には設置しないでください。 ・塩害地 ・最低気温が - 1 0 以下となる場所

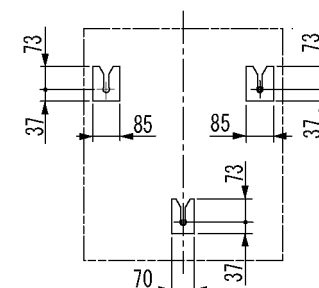
#### 5. アンカーボルト、配管取出し位置



寸法表

機種	BE-D37BWU BE-D46BWU	BE-D56BWU
A	625	685
B	730	790
C	483	540
D	121	120
E	418	467
F	163	193
G	103	150
H	148	166
J	167	197
K	243	273
L	56	86
M	103	103

脚部詳細寸法



## 6. 据付工事

### 6-1 据付場所の選定

温水器本体と建物のすきま寸法は、各都市の火災予防条例に従って設置してください。

保守点検に必要なスペースは必ず確保してください。

本体前方の保守スペースは600mm以上必要です。

温水器は水平な設置面に垂直に据え付けてください。(傾斜許容限界 2/100)

本体の設置場所は、配管材料を少なくし放熱口を少なくするため、使用頻度の多い台所の近くをお選びください。

排水設備のある場所に設置してください。

温水器は高温水を貯湯していますので放熱があります。室内(機械室)に据え付ける場合は、密閉室にならないよう換気口(換気口)を設け、熱がこもらないようにしてください。また、温水器の幅および高さ以上の出入り口を設けて搬入が容易にできるような構造としてください。

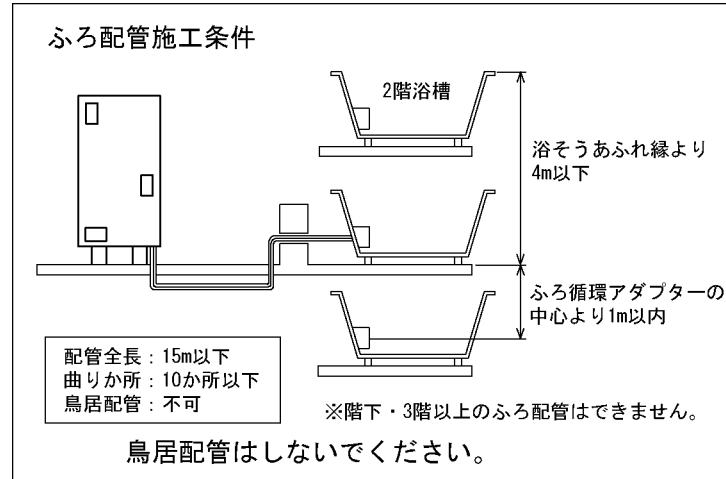
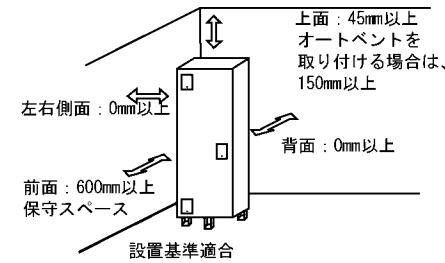
浴室など湿気の多いところには設置しないでください。

周囲温度が -10 以下となる場所に設置しないでください。

塩害を受けやすい地区では、温水器周辺の雨覆い、風覆いを行ってください。

屋外・屋内兼用型は雨水が集中して落下する場所、積雪で埋もれるような場所には設置しないでください。集合住宅等への設置はできません。

階下給湯は、温水器本体上面より下方 5m 以内としてください。(7-5 特殊配管工事)



### 6-2 搬入

温水器を吊り上げないでください。梱包材の変形などにより、本体が破損するおそれがあります。製品を2階以上へ運搬する場合は、エレベータやロングリフト等に乗せて、転倒しないように実施してください。開梱後の運搬には本体上面に設けてある取手と本体の下部の脚を使用して

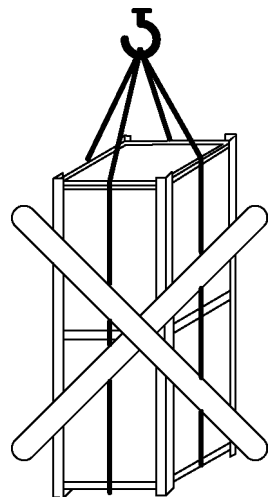
ください。

本体を横にしたままで地面や物の上に置かないでください。

製品の天板中央部にゴムブッシュが挿入されています。

これが浮いていないことを確認してください。

浮いている場合は挿入してください。



### 6-3 基礎工事

温水器の満水時の質量に耐える場所の選定および基礎工事をしてください。

温水器を屋内またはベランダに据付ける場合は、必ず完全な防水、排水工事を行ってください。

建物の固定部の材質	図解	注意事項
コンクリート基礎 屋外		・コンクリートの圧縮強度は 18.0MPa 以上
コンクリートスラブ コンクリート壁など 屋内		・コンクリートの圧縮強度は 18.0MPa 以上 ・防水堤工事を行う ・防水堤は、アンカーボルトの固定、取り外しの際および配管引き回しの障害にならないよう温水器との隙間を充分設けてください。 ・防水処理を行う

### 6-4 電気温水器の固定

温水器の脚は地震時などの転倒防止のため、脚3か所を必ずアンカーボルトで固定してください。

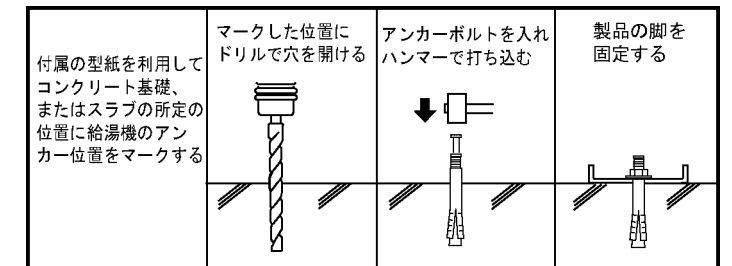
後方の脚を固定できない場合は、次項に示す「転倒防止金具(付属品)」および別売の「脚部後方差込金具」を使用して温水器を固定してください。

温水器を2階以上に据付ける場合は、温水器本体上部を次項に示す「転倒防止金具(付属品)」を使用して必ず固定してください。

アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。(芯棒打ち込み式アンカーボルトの場合)

呼び径	ドリル径 (mm)	穴深さ (mm)
M12	12.7	50

アンカーボルトの施工例は下図を参照してください。



### 6-5 転倒防止金具の取り付け

後方の脚を固定できない場合や、温水器を2階以上に据付ける場合などは必ず転倒防止金具を取り付けてください。

転倒防止金具は、温水器上部の背面、左右のいずれかに取り付けます。

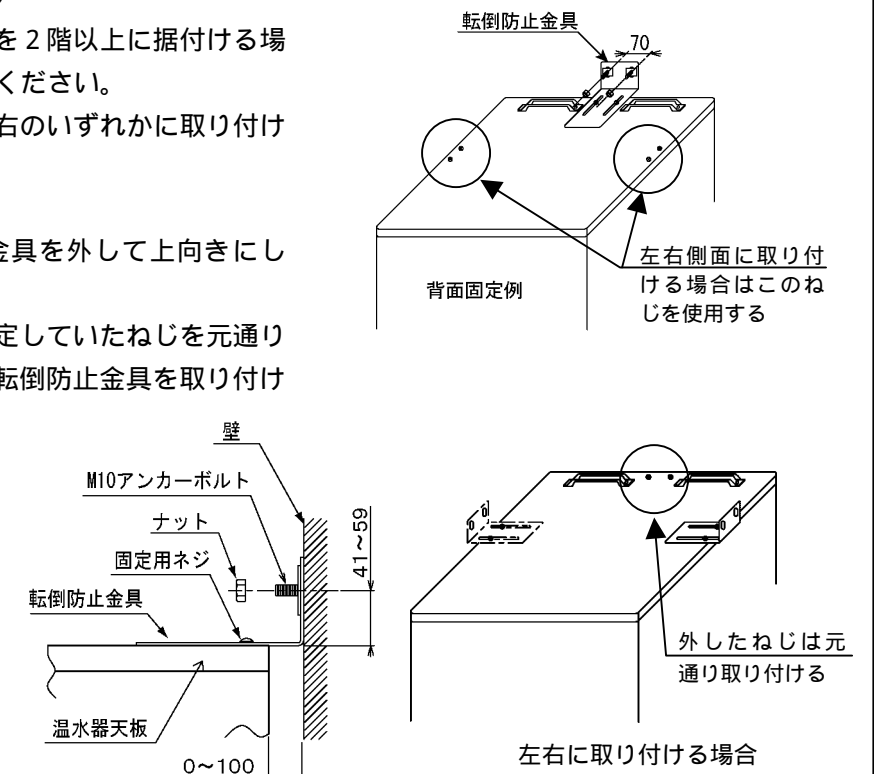
温水器上面に取り付けてある転倒防止金具を外して上向きにして取り付けます。

左右に取り付ける場合は、転倒金具を固定していたねじを元通り取り付け、該当場所の固定ねじを外して転倒防止金具を取り付けます。

市販のアンカーボルトを使用して、転倒防止金具を壁に固定します。

●引張荷重 5900N 以上に耐える壁に固定してください。

●アンカーボルトは引き抜き力が 2950N 以上になる施工をしてください。



## 7. 配管工事

水は、必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。  
塩分・石灰分・イオウ分、その他の不純物を多く含有する水や、純水、イオン交換水、井戸水は給水しないでください。

### 7-1 使用部材

オートベント、ふろ循環アダプター等は、必ず日立純正部品を使用してください。  
給水管、給湯配管、ふろ配管、排水配管は、耐食性、耐久性、耐熱性の優れた材料を使用してください。  
(当該水道局で材質が指定される場合は、これに従ってください。)  
一般的には銅管を使用します。配管継手は銅または、銅合金継手を使用してください。  
機外の給水、給湯配管は耐震性を考慮して、建物の固定配管(給水・給湯管)との接続部にフレキシブル配管を使用することをおすすめします。

場所	使用配管材	配管サイズ	絶縁 $\pi$ イ $\pi$	施工上の注意
給水管	耐食性を有するもの (銅管・水道用ライニング鋼管・水道用硬質塩ビ管)	20A (3/4B)	20A、0.5m ZP-3S	点検などで排水するときに必要な温水器専用止水栓を取り付けてください。 給水接続口には絶縁 $\pi$ イ $\pi$ の取り付けをおすすめします。 太陽熱温水器のお湯は接続しないでください。
給湯配管	90以上の耐熱・耐食性を有するもの (銅管・耐熱性硬質塩ビ管・架橋 $\pi$ リ $\pi$ 管)	20A (3/4B)	20A、0.5m ZP-3S	給湯接続口には絶縁 $\pi$ イ $\pi$ の取り付けをおすすめします。 階下への給湯は、温水器本体上面より下方5m以内です。 3階への給湯は手洗い程度になります。
ふろ配管	90以上の耐熱・耐食性を有するもの (銅管・耐熱性硬質塩ビ管・架橋 $\pi$ リ $\pi$ 管)	15A (1/2B)	不要	配管長さは下記の通りです。 ・15Aの場合、15m10曲がり以内 ・13A架橋 $\pi$ リ $\pi$ 管の場合、15m10曲がり以内 ・12.7銅管の場合、6m5曲がり以内 階下へのふろ配管はできません。 階上設置の場合、温水器設置面から浴そうあふれ縁まで、上方4m以下にしてください。 鳥居配管はしないでください。 ふろ循環アダプターは必ず指定のものを使用してください。 フレキ管を使用される場合は、片側0.5m以内としてください。
タンク排水管	90以上の耐熱・耐食性を有するもの (銅管・耐熱性硬質塩ビ管)	16以上	不要	沸き上げ中にタンク排水管より少量のお湯(逃し弁からの膨張水)がでますので、必ず排水工事を行ってください。 1/200以上の先下り勾配としてください。 排水管長さは2m以下とし、バルブは取付けしないでください。 フレキ管は使用しないでください。流れが悪くなり逆流します。

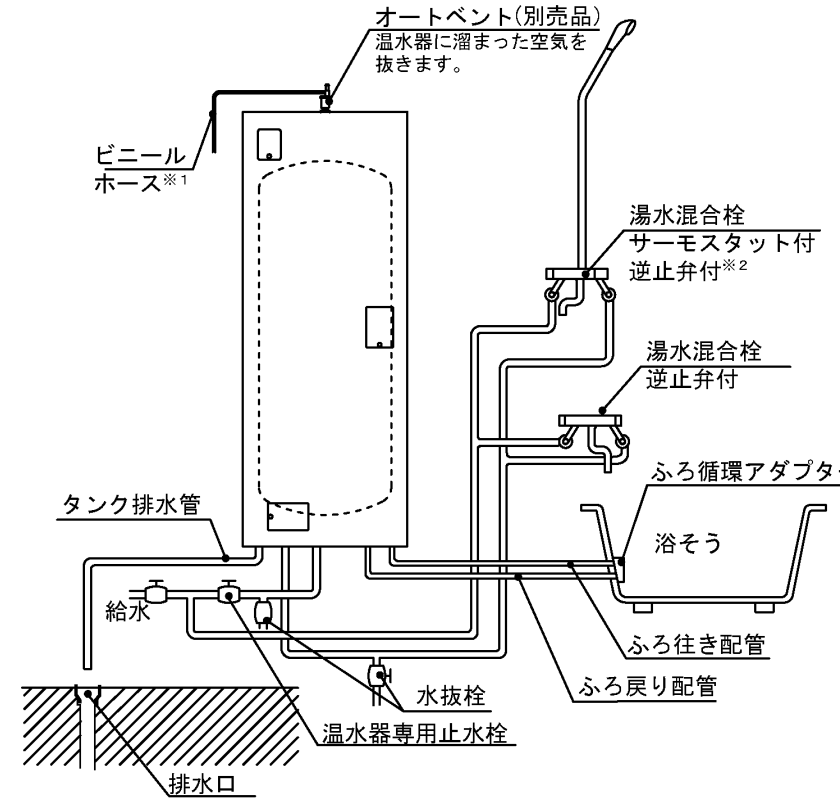
### 7-2 配管工事注意事項

水は、必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。  
塩分・石灰分・イオウ分、その他の不純物を多く含有する水や、純水、イオン交換水、井戸水は給水しないでください。  
配管を施工する前に配管内のごみは、きれいに清掃し温水器内にごみが入らないようにしてください。  
給排水配管、給湯配管の配管接続作業は、必ずパイプレンチ2本を使用し製品に無理な力がかからないよう十分注意してください。  
凍結防止のため配管の保温を必ず確実にしてください。  
配管工事用部品はシステムに適合した指定の別売品を使用してください。  
シャワー給湯栓は必ずサーモスタット式の逆止弁付き湯水混合栓を、その他の混合栓も必ず逆止弁付き湯水混合栓を取り付けてください。なお、シャワー給湯栓は構造により出湯量が極端に少ない場合がありますので、最低必要圧力、シャワーヘッドの仕様を確認して選定してください。  
全自動洗濯機に直接給湯配管をすることはできません。  
太陽熱温水器のお湯を給水管に接続しないでください。  
一台の温水器で、保温、追焚ができる浴そうは一つです。  
2階等に設置して階下に給湯する場合は、「7-5 特殊配管工事」の注意事項にしたがってください。  
タンク排水管の下には必ず排水ホッパーを設けてください。必ずタンク排水管とホッパーとの間に空間を設け、排水管の排水が凍結した場合でも、タンク排水管を閉塞しないようにしてください。  
(タンク排水(膨張水の排水)管が閉塞すると、逃し弁が動作してもタンクが破損することがあります。)  
配管用シール剤によっては揮発性ガスによりゴムなどを傷めることがあります。シール剤を使用後は十分乾かしてください。  
試運転終了後、減圧弁のストレーナーを掃除してください。

**!** ふろ循環アダプターは必ず日立純正品をご使用ください。  
純正品以外を使用されますと湯はりが正常に行われません。  
また、故障や事故の原因になります。

## 7-3 ふろ・給湯配管工事

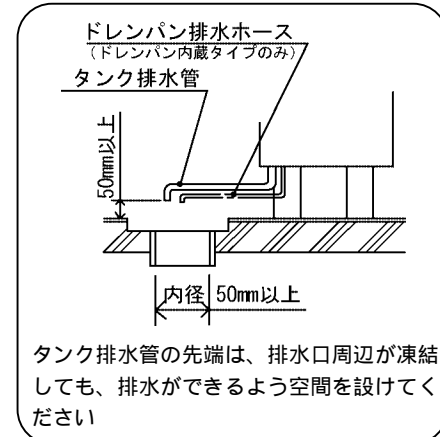
### (1) 標準配管例



### 必要給水圧

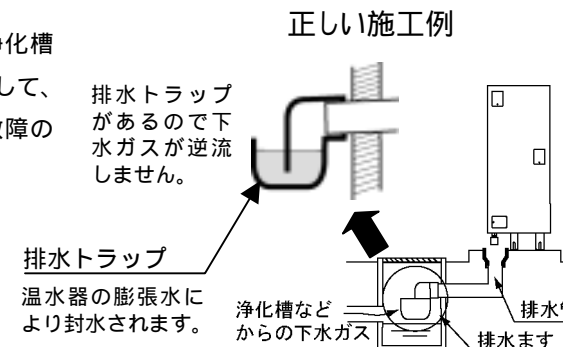
	必要給水圧
高圧力型	0.2MPa 以上

- オートベントを取付けた場合は、ピンールホースを取付け排水口へ導いてください。また、ホースの先端は大気へ開放してください。
- すべての湯水混合栓は必ず逆止弁付き混合栓を取り付けてください。



排水配管には必ず排水トラップを設置してください。

排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流して、温水器が著しく腐食し故障の原因になります。

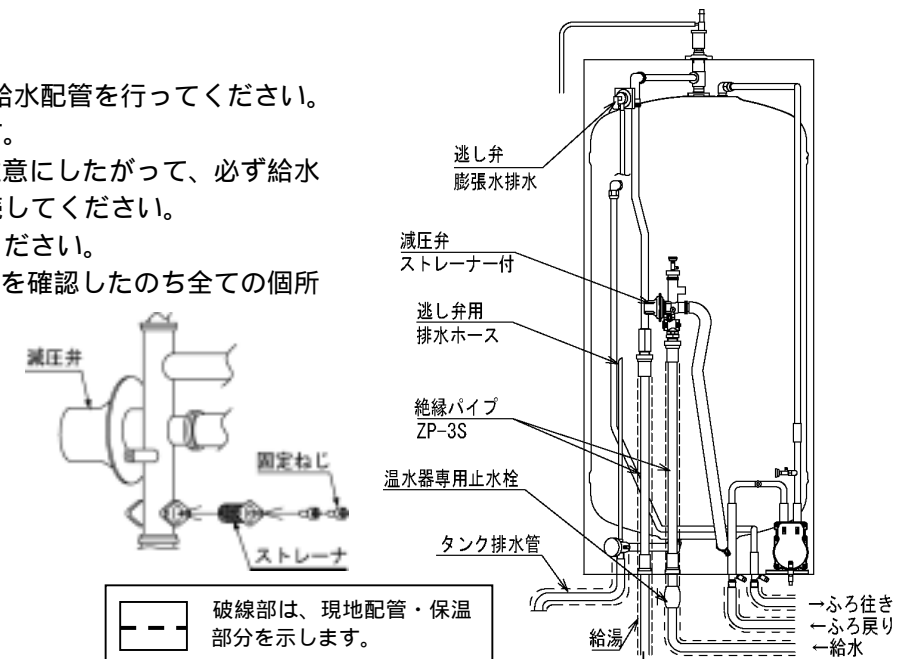


× 誤った施工例

排水トラップがないので下水ガスが逆流し、温水器が腐食します。

### (2) 内部配管例

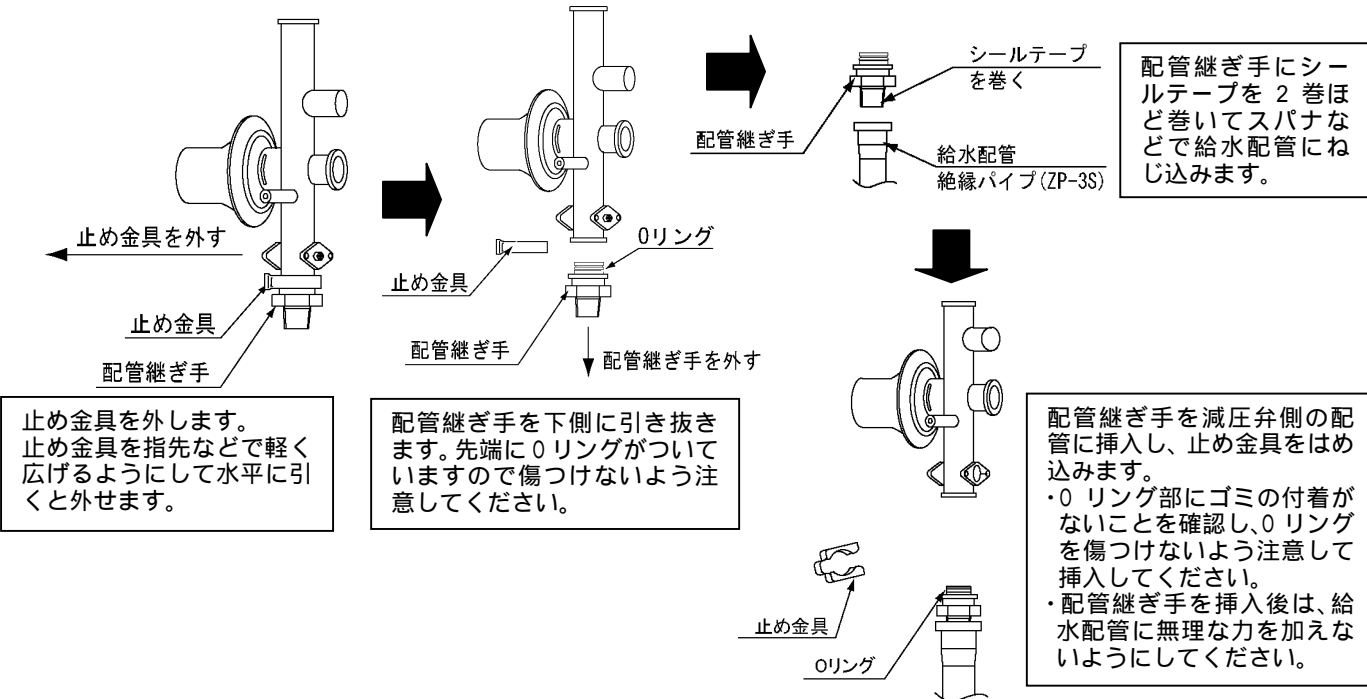
温水器の前面カバーを外し、給湯・給水管を行ってください。  
絶縁パイプの使用をおすすめします。  
給水管配管施工は、次頁の配管施工注意にしたがって、必ず給水管配管継ぎ手を外して給水管を接続してください。  
ふろ行き、戻り管の配管を行ってください。  
現地施工部分は、水漏れがないことを確認したのち全ての個所に保温工事をしてください。  
逃し弁からの膨張水は、逃し弁用排水ホースを通してタンク排水管から排水されます。  
試運転終了後、減圧弁のストレーナーを掃除してください。



## 給水配管施工注意

給水配管継ぎ手を外して給水配管を接続してください。

給水配管接続部（減圧弁部）は樹脂製です。配管継ぎ手を減圧弁側につけた状態で配管の接続を行うと減圧弁部が破損する場合があります。下記の手順によって施工してください。



止め金具を外します。止め金具を指先などで軽く広げるようにして水平に引くと外せます。

配管継ぎ手を下側に引き抜きます。先端に0リングがついていますので傷つけないよう注意してください。

配管継ぎ手を減圧弁側の配管に挿入し、止め金具をはめ込みます。  
 ・0リング部にゴミの付着がないことを確認し、0リングを傷つけないよう注意して挿入してください。  
 ・配管継ぎ手を挿入後は、給水配管に無理な力を加えないようにしてください。

## 7-4 ふろ循環アダプターの取り付け

ふろ循環アダプターは必ず日立純正品をご使用ください。

日立純正ふろ循環アダプターは厚さ20mmまでの浴そうに対応します。

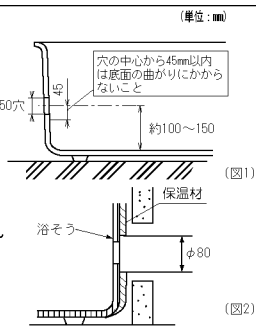
無極性ですので、行き・戻りの指定はありません。

### ●浴そうの穴あけ

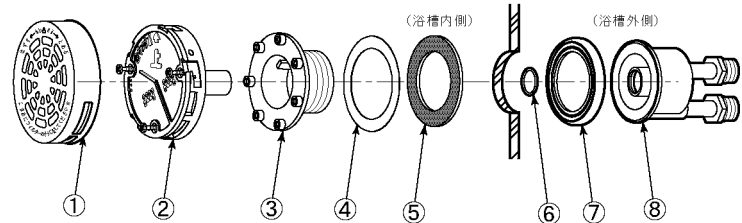
浴そうの底部から約100～150mmの位置にφ50mmの穴を開け、パッキンの当たり面を平滑にしてください。このとき、穴の中心から45mm以内は浴そう底面の曲がりにかからない位置にし、平面部を確保してください。また、バリはきれいにとってください。(図1)

(注)浴そうの外側に保温材があるものは、直径約80mmの範囲内を丁寧に取り除いてください。(図2) 保温材が残っているとシール性が悪くなり水漏れのおそれがあります。

底部からの高さを誤ると、湯はり時の水位が正常にならない場合があります。



取付けの前に、下記部品の数量を確認してください。(平シートと平パッキンは取付けたままにしておいてください。)



### 循環アダプター本体

番号	品名	数量
①	フィルターセット	1
②	フィルターガイド	1
③	浴槽ボルト	1
④	平シート	1
⑤	平パッキン	1
⑥	Oリング	1
⑦	カブセパッキン	1
⑧	循環口ボディ※	1

※循環口ボディはストレートタイプ、L曲タイプの2種類の形状があります。本図は、ストレートタイプです。

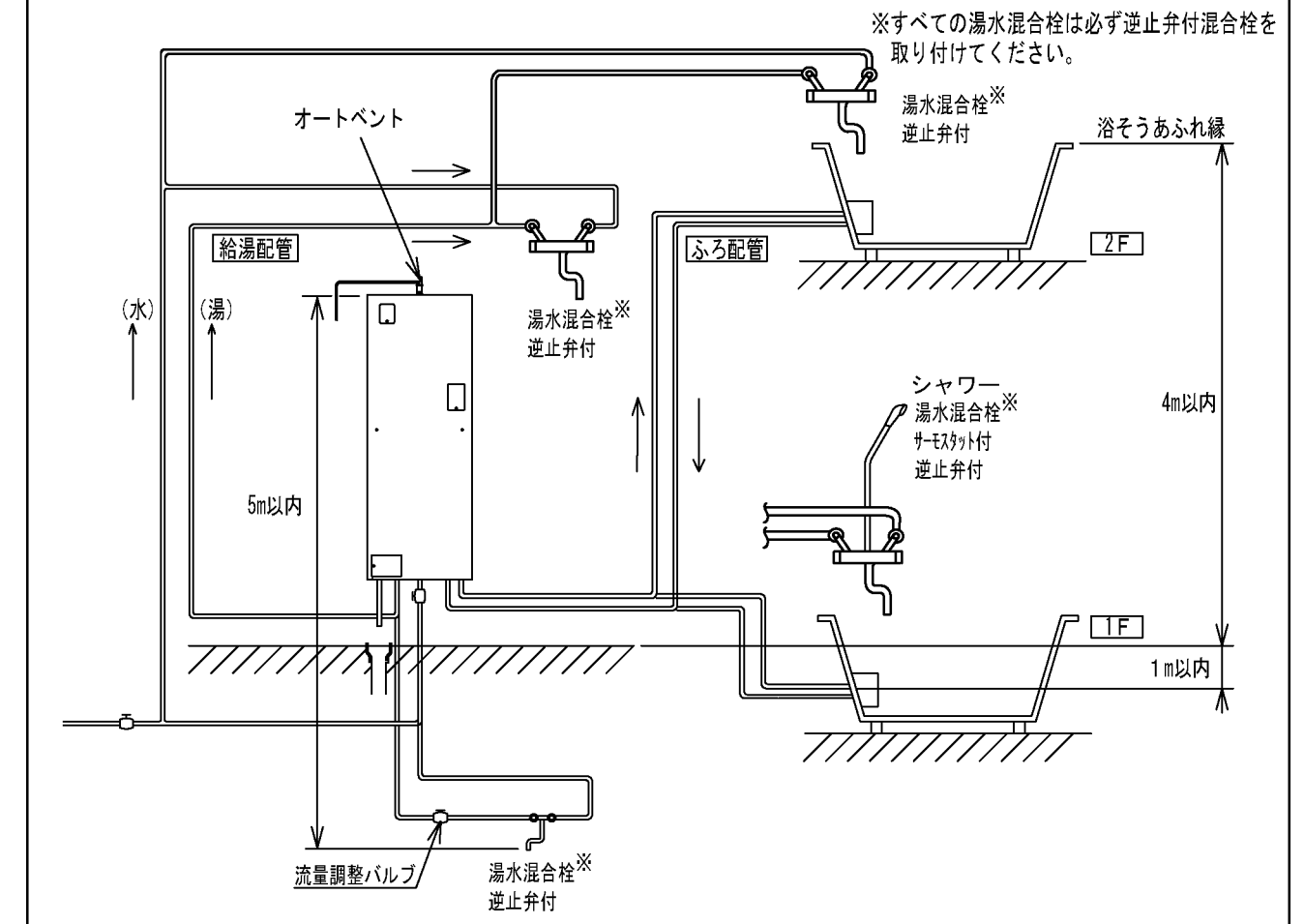
## 7-5 特殊配管工事

### (1) 階上給湯の場合

温水器設置面より、浴そうあふれ縁までの高さは上方4m以内です。

給水圧は0.2MPa以上必要です。  
3階への給湯は手洗い程度です。

### 特殊配管例（階下給湯・階上給湯など）



### (2) 階下給湯の場合

階下への浴そう設置はできません。

温水器設置面より、ふろ循環アダプターまでの高さは下方1mまでとしてください。

給湯配管は温水器本体上面より下方5m以内としてください。

給湯配管の途中に流量調節バルブを取付けてください。

温水器最上部のオートベント取り付け口へ、必ずオートベントを取り付けてください。



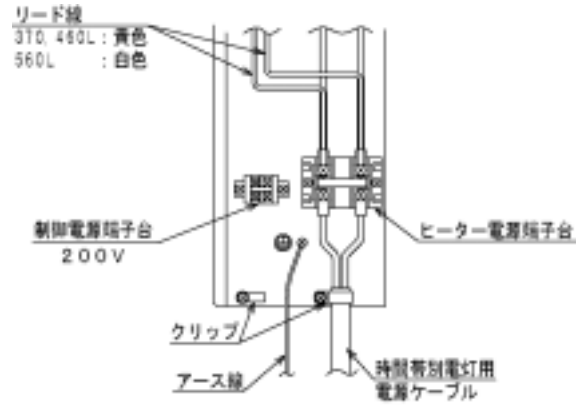
## 8-2 温水器内部配線工事

電力の契約内容(深夜電力、時間帯別電灯)により内部配線は異なります。  
**温水器出荷時は、時間帯別電灯型【 】用に内部配線をしています。**

各コードは必要以上にたるませないでください。  
 特にヒーターやタンクに触れないよう確実に離して固定してください。

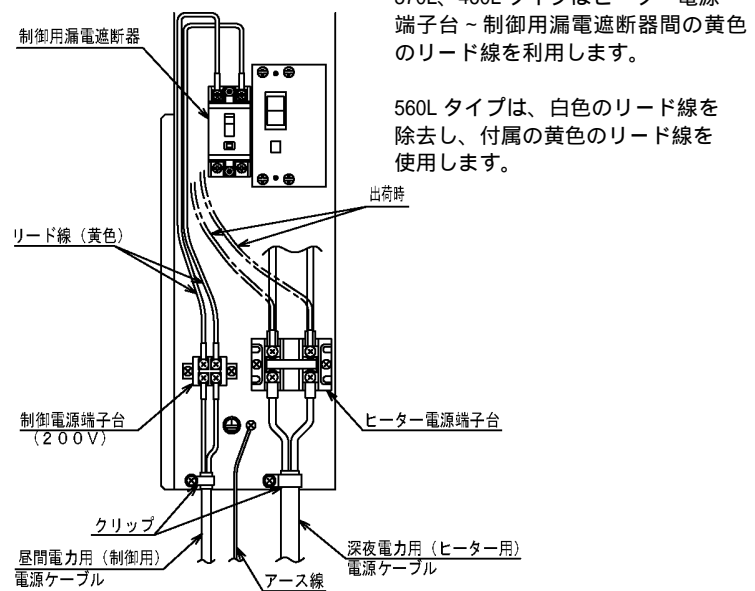
### 時間帯別電灯【 】で使用する場合

時間帯別電灯用電源ケーブルをヒーター用端子台に接続します。



### 時間帯別電灯【 】で使用する場合 深夜電力で使用する場合

制御電源端子台～制御用漏電遮断器間を黄色のリード線(2本)で接続します。( )  
 昼間電力用(制御用)電源ケーブルを制御電源端子台に接続します。  
 深夜電力用(ヒーター用)電源ケーブルをヒーター電源端子台に接続します。

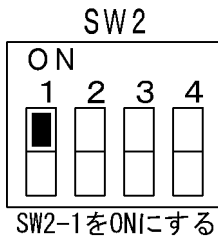


370L、460Lタイプはヒーター電源端子台～制御用漏電遮断器間の黄色のリード線を利用します。

560Lタイプは、白色のリード線を除去し、付属の黄色のリード線を使用します。

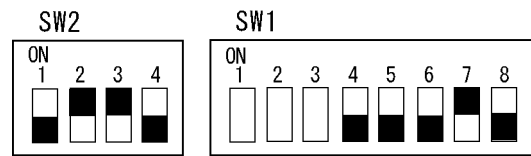
### 中国電力管内でご使用の場合

中国電力管内で、時間帯別電灯契約でご使用の場合、ディップスイッチ2-1を右図のように切り替えてください。



SW2-1をONにする

### ディップスイッチ初期値



※タンク容量による

### ※タンク容量設定

タンク容量	設定	SW1 No.		
		1	2	3
370L	ON OFF	ON OFF	ON OFF	ON OFF
460L	ON OFF	ON OFF	ON OFF	ON OFF
560L	ON OFF	ON OFF	ON OFF	ON OFF

■ : ON  
 □ : OFF

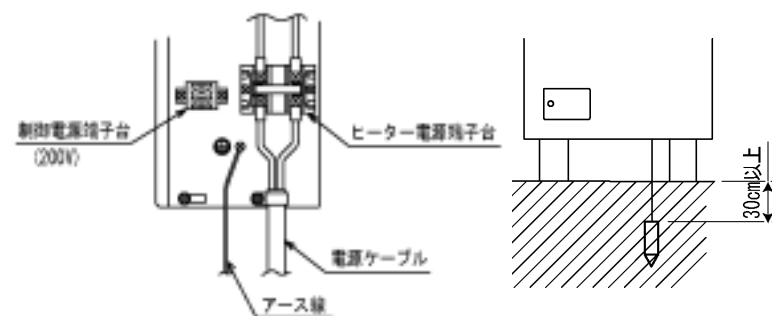
## 8-3 アース(接地)工事

感電事故防止のため電気設備基準および内線規程に基づきD種接地工事を行ってください。  
 水道管、ガス管への接地及び他器具類用アースとの共用はしないでください  
 アース棒、アース線(緑色)をハンダ付けて確実に接続し、接触抵抗の変化がないように絶縁テープを巻付けます。  
 アース線を電源コード取り出し口から本体内に通し保護アースに接続します。  
 アース棒を地中深さ30cm以上の深さに打ち込みます。

**警告** **必ずアース工事を行う**

### アース線の太さ

ヒーター容量 4.4kW・・・銅線 1.6 または 2mm<sup>2</sup>以上  
 ヒーター容量 5.4kW, 6.4 kW・・・銅線 2.0 または 3.5mm<sup>2</sup>以上



## 8-4 リモコン工事注意事項

リモコンコードは別売りです。台所リモコン、追焚きスイッチそれぞれに1本づつ必要です。  
 下記より選定してください。(両端に接続用の端子が取り付けられています。)

- ・BERC-5M2 (コード長さ 5m)
- ・BERC-10M2 (コード長さ 10m)
- ・BERC-15M2 (コード長さ 15m)

リモコンコードを現地調達される場合は  
 長岡特殊電線製シールド付2芯ケーブル(MVVS、0.3mm<sup>2</sup>×2芯、12/0.18mm)と同品をご使用ください。  
 リモコン取付工事は、専門の技術が必要です。販売店または工事店が行ってください。

**リモコンコードの接続は、200V電源通電前に行ってください。**

温水器本体までの配線長さは15m以下としてください。  
 リモコンコードは、電源ケーブル、アース線、および他機種のリモコンケーブルと離して配線してください。ノイズによる誤作動の原因になります。  
 台所リモコン、追焚きスイッチは凹凸のあるところには取付けないでください。

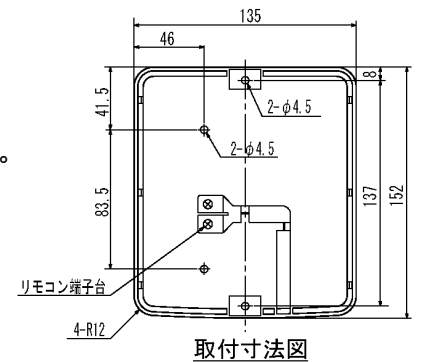
## 8-5 台所リモコン工事

### (1) 取り付け場所の選定

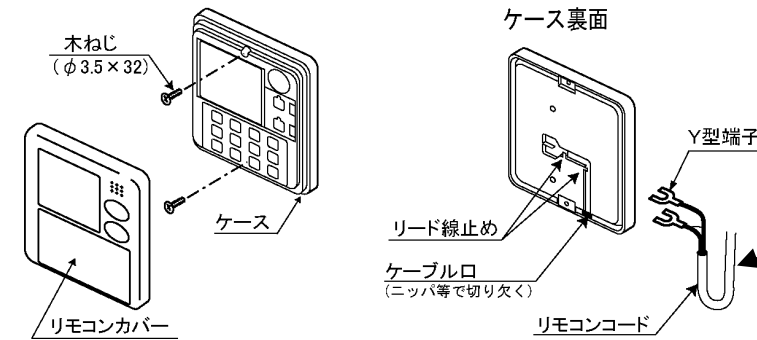
台所リモコンはボタン操作が容易に行え、表示が目の高さよりやや低い位置になるよう取り付けてください。  
 台所リモコンは防水タイプではありません。湿気の多いところ、蒸気や水しぶきのかかるところは避けてください。また、調理器のそばや直射日光の当たるところに取り付けないでください。  
 台所リモコンの取付面が金属の場合、リモコンコードのY型端子が金属面と接触しないよう注意してください。

### (2) 壁面に取り付ける場合(コード露出配線)

マイナスドライバーなどで、リモコンカバーをケースから取り外します。  
 ケースのケーブル口部をニッパなどで切り欠きます。  
 リモコンコードをリモコン端子台に接続し、リード線止めに止めます。  
 ケースを付属の木ねじ(3.5×32)2本で壁に固定し、リモコンカバーをケースにはめます。  
 リモコンコードを壁に固定して貯湯タンクユニットまで配線します。



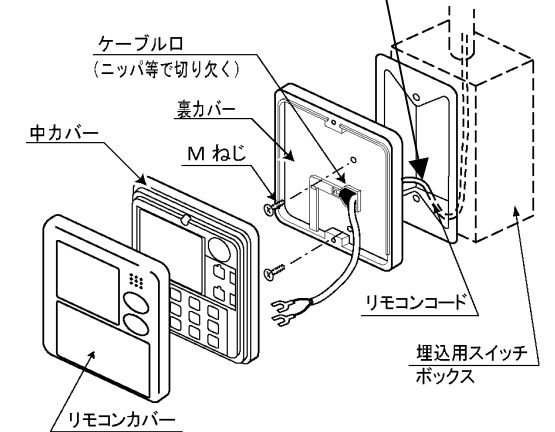
取付寸法図



リモコンコードは、結露などの水滴がリモコン内に浸入しないよう、必ず下方にたるみを設けてください。

### (3) リモコンコードを壁中に通す場合(コード埋込配線)

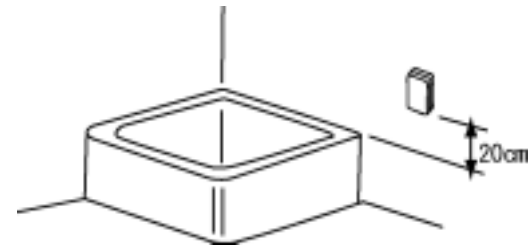
リモコン取り付け位置に埋込用スイッチボックス(JIS1個用)を取り付けておきます。  
 リモコンコードを電線管に通し、温水器本体まで配線します。  
 マイナスドライバーなどでリモコンカバーをケースから取り外し、中カバーを裏カバーから取り外します。(裏カバーに爪が6か所あります)  
 裏カバーのケーブル口をニッパなどで切り欠き、埋込用スイッチボックスから出ているリモコンコードを通します。  
 裏カバーをMねじ2本(現地調達)で埋込用スイッチボックスに取付けます。  
 リモコンコードをリモコン端子台に接続します。  
 中カバーを、裏カバーにはめ込みます。  
 リモコンカバーをケースにはめ込みます。



## 8-6 追焚きスイッチの取り付け

### (1) 取り付け場所の選定

入浴する際に極端にお湯がかかったりすることのない位置を選んでください。  
浴室外の追焚きスイッチ先端の防水カバー取付け場所は雨水、飛水のかからない乾燥した場所で、機器排熱を受けない場所を選んでください。  
浴室内側は浴そうから20cmぐらい上の位置が適当です。



### (2) 追焚きスイッチ取付け

穴径36~38mmの貫通穴をあけます。  
追焚きスイッチから出ているリード線をねじ棒大、ねじ棒小に通します。  
ねじ棒大のねじ部にシールテープを巻いて追焚きスイッチねじ穴部にしっかりねじ込み、接着シートのセパレート紙をはがして浴室壁面に接着します。  
ねじ棒小にナットを時計方向に回してねじ込み、更にねじ棒小をねじ棒大へねじ込み、壁押え板を浴室外壁面に押え付け密着固定してください。

(注) 締め付け過ぎますと、ねじ棒小が破損することがあります。  
コード押えをタッピングネジで締め付け、リモコンコードを壁押え板に固定してください。

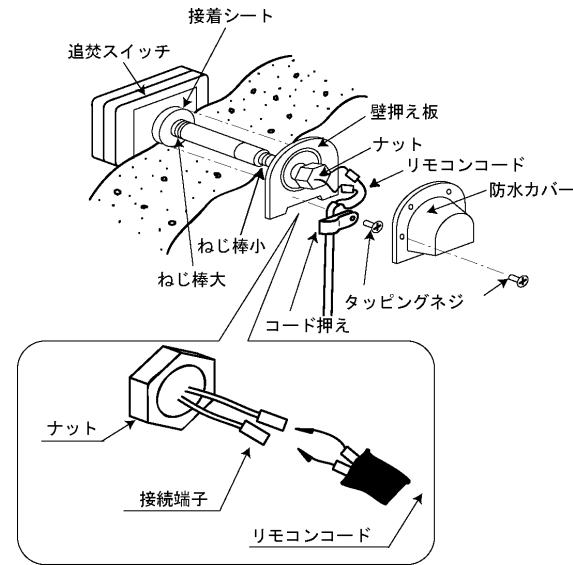
リモコンコードの端子部分を切断し、リード線の先端約7mm皮ムキしてください。(片側のみ)

リモコン側リード線とカシメ作業を行ってください。

壁貫通穴の隙間をパテなどで塞いでください。

防水カバーをタッピングネジで壁押え板に締め付け、雨水が入らないようにしてください。

**締め付ける時あまり強く締め付けると防水カバーを割ることがあります。適度に締め付けてください。**



ねじ棒を使用して取り付けられない場合は下記の方法で取り付けてください。

穴径36~38mmの貫通穴をあけます。

追焚きスイッチ裏面のナベねじ4本を取外し、付属のナベねじ(4×16)を使用してリモコンベース裏面から共締めします。

追焚きスイッチを取り付けたリモコンベース裏面の接着シートのセパレート紙をはがして浴室壁面に接着します。

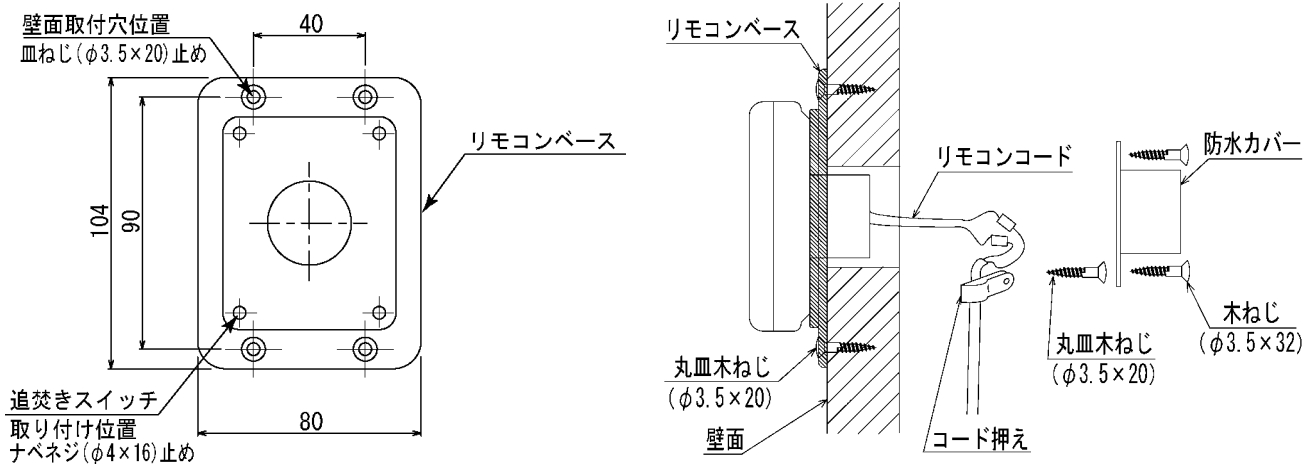
付属の丸皿木ねじ(3.5×20)4本で壁にねじ止めします。

追焚きスイッチのコードを浴室外に出しコード押えを付属の丸皿木ねじ(3.5×20)1本で壁に固定します。  
コード押えの取付位置は防水カバー内に入るようにして取付ください。

壁貫通穴をパテなどで塞ぎます。

防水カバーを付属の木ねじ(3.5×32)4本で壁に固定します。

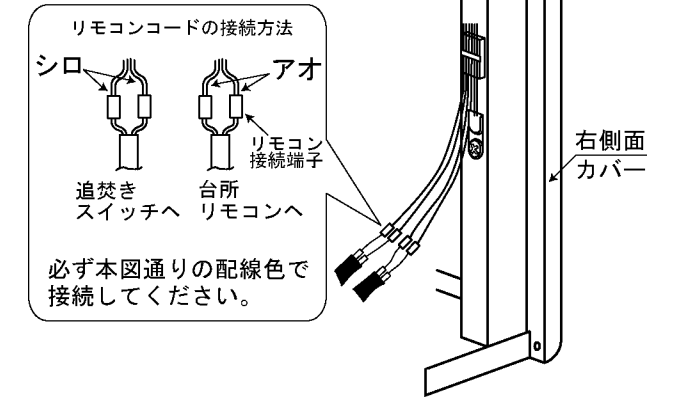
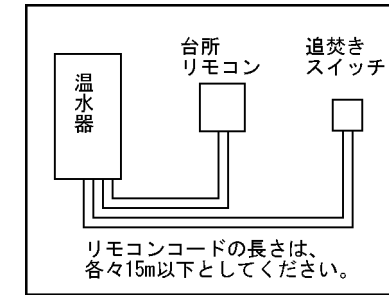
防水カバー取付後、防水カバーのまわりを全周シリコンコーキングしてください。



## 8-7 温水器との接続

台所リモコン、追焚きスイッチはどちらも無極性ですが、温水器との接続は下図の要領で、必ず台所リモコンは【アオ色】、追焚きスイッチは【シロ色】の配線に接続してください。

リモコンコード取出口からリモコンコードを通し、リード線の先端約7mmを皮ムキしてください。  
リモコン側リード線とカシメ作業を行ってください。



## 9. 試運転

**電源は、タンクを満水にし、呼び水を行った後「入」にする。**

据付工事および附帯工事が完了しましたら、お客様にも立会っていただき試運転を行ってください。  
運転操作はもとより誤操作の注意などよく説明し、理解を深めていただくようにしてください。

深夜電力契約の場合は、電力会社の了解を得てタイムスイッチを通電状態にしてください。

台所リモコン、追焚きスイッチの操作は取扱説明書を参照してください。

**警告** アースが接地されていることを確認する。

### 9-1 タンクを満水にする

すべての湯水混合栓が閉じていることを確認する。

温水器の排水栓、水抜き栓を閉じる。

逃し弁を開く。

水道の元栓と温水器専用止水栓を開いてタンクに水を入れる。

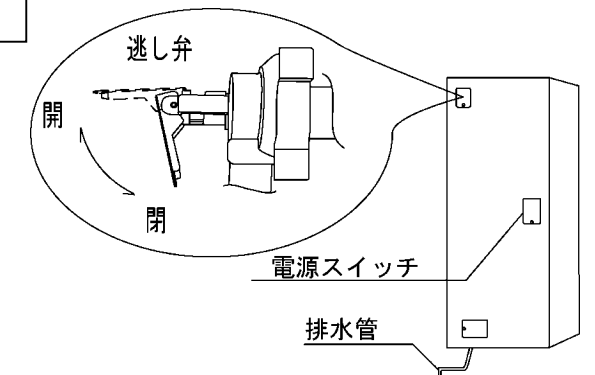
タンクが満水になると、排水管から水が出ます。

満水までの所要時間は約30~50分です。

満水になったら逃し弁を閉じる。

水道の元栓、温水器用止水栓は開いておく。

**配管接続の各部分および逃し弁、オートベント、減圧逆止弁、ふる循環アダプターから水漏れがないか十分点検してください。**



### 9-2 呼び水を行う

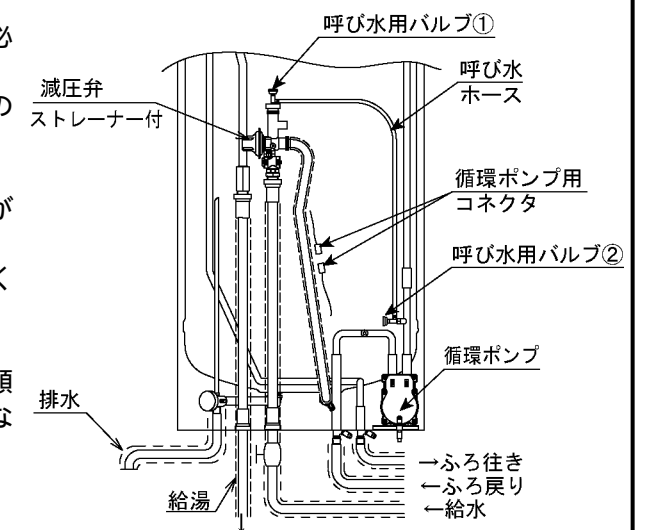
循環ポンプに水を入れます。追焚き運転に必要な作業ですので必ず実施してください。

減圧弁上部に付属しているホースの先端を循環ポンプ上部の呼び水用バルブに接続します

減圧弁部、循環ポンプ部上部の呼び水用バルブを開きます。約30秒ほどで循環ポンプに水が入ります。循環ポンプに水が入るとふる循環アダプターから水が出ます。  
減圧弁部、循環ポンプ部上部の呼び水用バルブを閉じてください。

循環ポンプの配線コネクタを接続してください。

必ず呼び水ホースを温水器から取り外し、お客様に保管を依頼してください。呼び水ホースは、水抜き後の再運転時に必要な部品です。



### 9-3 電源を入れる

電源を入れる前に必ず循環ポンプに【呼び水】を行ってください。

200Vの元電源ブレーカを「入」にする。

温水器の電源スイッチを「入」にする。(2か所)

**タンクが満水になっていないと台所リモコンに【Er04】または【Er10】が表示されます。**温水器の電源スイッチ(2か所)と電源ブレーカを「切」にし給水を完了してください。

漏電遮断器の動作確認のためテストボタンを押す。

「入」の状態から「切」になれば正常です。「入」に戻してください。

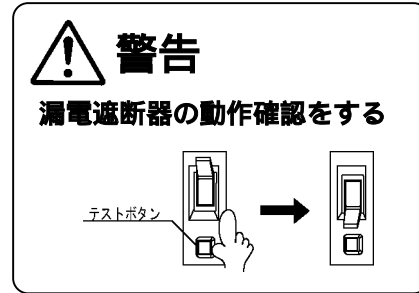
ヒーターへの通電を確認する。

電力量計が動作し、台所リモコンに[沸き上げ中]が表示されます。

(自動的に[沸き増し][少量]が設定されます。)

#### 試運転時の沸き上げ

1. 初期状態(工場出荷時)は、制御電源を通电しますと「沸き増し(少量)」を表示し、ヒーター電源を通电しますとヒーター通電を開始します。
2. 少量沸き上げ後は、自動的に全量を沸き上げます。  
このとき、水温等の条件によって、すぐには全量沸き上げを行わない場合がありますが、約8時間後には全量沸き上げを完了します。  
【お知らせ】 通電開始後約10時間は「沸き増し(全量)」設定を受け付けませんが正常な動作です。



### 9-4 循環ポンプの運転確認

浴そうの栓をする。

混合栓を開いて浴そうに水を張ります。水量はふる循環アダプター上端より10cm以上必要です。

水張り終了後、ふる配管およびふる配管接続部から水漏れがないことを確認してください。

追焚きスイッチの【追焚き】ボタンを押します。

循環ポンプが動作して水がふる循環アダプターから出てくることを確認してください。

【追焚き】ボタンを再度押して循環ポンプの運転を停止し浴そうの水を抜いてください。

### 9-5 リモコンの設定を行う

各設定方法は取扱説明書を参照してください。

台所リモコンで時刻の設定をする。

台所リモコンでタンク沸き上げ温度を設定する。

深夜電力契約の場合は、試運転完了後にタイムスイッチの時刻を現在時刻に戻してください。

試運転後、すぐに使用しない場合は、温水器の電源スイッチ、電源ブレーカを「切」にし、タンク内の水を完全に抜いてください。また、凍結の恐れのある地域では配管凍結防止の為、必ず「11.水抜き要領」の手順で水抜き操作を行ってください。

## 10. これだけはお客様に説明してください

工事説明書に基づいた工事が行われると思いますが、据付条件などにより多少異なっている場合はそのポイントを説明してください。

漏電遮断器、逃し弁、オートベントの点検方法および温水器への給水、排水方法を、現品を見せながら説明し、取扱説明書にも記載されている旨説明してください。

温水器への給水は完了しているかどうか、終わっていない場合はその操作、確認方法を説明してください。

配管のネジ切りなどに油を使用した場合、しばらくの間給湯専用蛇口や混合栓から油やよごれが出る心配があります。その旨説明してください。

凍結防止の注意点(操作方法等)を説明してください。

断水の連絡があった時には速やかに電気温水器給水側の温水器専用止水栓を閉めるようご説明ください。そのまま放置されますと異常水圧(負圧)により缶体を破損する場合がありますので十分注意してください。

本製品はポンプを内蔵していますので、追焚き、保温中は製品からポンプ音がします。

その旨説明してください。

取扱説明書、工事説明書および呼び水で使用したホースは、必ずお客様にお渡しし、保管をお願いしてください。

本製品を長期間安心してお使いいただくために、3~4年に一度、専門技術者による定期点検を実施していただくようお願いしてください。

## 11. 水抜き要領

- (1) 浴そうの水を全て抜いてください。
- (2) 制御電源スイッチ、ヒーター電源スイッチを「切」にしてください。
- (3) 温水器前面のパネルを外してください。
- (4) 温水器専用止水栓を閉じてください。
- (5) ふる戻水抜き栓、ふる行き水抜き栓、循環ポンプ水抜き栓を開いて配管内の水を抜いてください。
- (6) の水抜き栓を閉じ、必ず**循環ポンプのコネクタを外してください。**
- (7) 逃し弁を開いてください。
- (8) 排水栓を開いて、タンク内の湯を抜いてください。  
排水管(溝)から湯があふれないよう注意してください。
- (9) タンクの湯がぬけたら、を開いて給水配管内の水を抜いてください。
- (10) 給湯配管の水をバルブ(現地配管)を開いて抜いてください。
- (11) 給水配管の水をバルブ(現地配管)を開いて抜いてください。
- (12) 減圧弁部の水抜き突起を指で押し、減圧弁部に溜まっている水を抜きます。
- (13) 全てのバルブから水(湯)が出なくなったら 逃し弁を閉じ、  
~ のバルブを全て閉じてください。

